

準備・開会前(実行委員会)



70名の実行委員が6つのグループに分かれ、4回の実行委員会で準備を進めました。

準備・開会前(当日準備)



会場・受付の準備は、すべて実行委員が行いました。



新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実行委員が受付を行いました。

オープニング



香川県立高松西高等学校書道部による力強いパフォーマンスでサミットがスタートしました。

開会行事



サミット実行委員長の赤瀬未歩さんが「今回は、教科の力といじめゼロをかけあわせて、一人一人の得意なこと、好きなことを通していじめゼロに向けた取組を考えました。「ふみだそう すべての人に灯火を」のテーマが、香川県のすべての人に広がり、あたたかい灯火の輪が広がっていくことを願っています。「いいな！」「やってみたいな！」と思った取り組みがあれば、自分たちの学校でもやってみてください」と呼びかけました。ゲスト紹介では、mimikaさんや景井ひなさんら一人一人から、会場の参加者に向けてエールをいただきました。

基調提案



司会・進行グループより基調提案を行いました。基調提案では、今回のサミットの柱（「教科の力をいじめゼロに活用する工夫」、「辛い思いを安心して記入できる学校生活アンケートの工夫」）について、サミットのテーマ「ふみだそう！すべての人に灯火を」について提案されました。基調提案後は、「Yes、Noのうちわ」を用いてアイスブレイクを行い、会場の雰囲気をもたせました。

いじめゼロクイズ



いじめゼロ宣言グループからは、いじめゼロクイズが提案されました。今回のサミットに向けて準備した内容や、香川県のいじめの現状をクイズ形式で提案しました。また、「あなたはどうする？」という問いかけで、いじめをしようと声をかけられた時の対応について会場と意見交換をしました。

県内企業等応援メッセージ



広報グループからは、県内の企業や著名な方から、いじめゼロに向けた応援メッセージの動画やカードが紹介されました。地域や大人の方々からの温かいメッセージから、改めていじめゼロに向けて強い決意を持ちました。

ポスターコンテスト



情報グループからは、11月のいじめゼロ強調月間に配布するポスターの図案について、コンテスト形式で選出しました。それぞれの図案に込められた思いを聞き、会場の児童生徒による投票により、ポスターに使用する図案1点、チラシに使用する図案1点を決定しました。

劇



劇グループは、「学校生活の休み時間の出来事」を劇で演じました。あえてバッドエンドにすることで、どこに問題があったのかを会場と考え、何気ない言動が知らない間に人を傷つけること、周りの傍観者の関わりが大切であることを学びました。

ゲスト講演



景井ひなさんより、自らのいじめ体験談をお話いただきました。
【内容の一部】明確な理由なんてないいじめの方が多いのかもしれない。誰かの勇気ある一言でいじめがなくなることもあるということを知ってもらえたらと思います。こうしていじめ問題に向き合い、よりよい環境をつくろうと模索している皆さんの姿は本当に心強いなと思います。

シンポジウム



シンポジウムでは、「実行委員会の活動を振り返って思うこと」、「学校生活アンケートの工夫」の2つの協議の柱のもと、意見交換を行いました。実行委員の活動の振り返りでは、それぞれのグループの代表者が活動を振り返りました。実行委員からは、「いじめはいじめっ子にだめと言え、止められると思っていた。でもそうじゃなかった。いじめはいじめられる子といじめる子の問題だと思っていた。でも、そうじゃなかった。実行委員会の活動を通して、そういうことを学んできた。」「いじめをとめるキーパーソンは周りにいる傍観者なんじゃないか」「一見いじめか、いじめでないかのボーダーラインのいじめは、本当に止めにくい。でも、被害者の味方になることはできる。そうすることで、被害者の人生まで変わるんじゃないか」等の意見が出されました。

アンケートの工夫については、安心して記入できるよう、①無記名にする。②回数を増やす。③家で書いてきてもよいことにする。④提出先を複数にする。⑤一人一台端末を活用する。⑥受け取った先生は、加害者に知られないように慎重に対応する。などの意見が出されました。

閉会行事



サミット実行委員長の日下絢さんが、「サミットはこれで終わりではありません。私たちにはそれぞれの学校に戻り、今日感じたことを伝え、さらに仲間を増やす役割があります。いじめに怯え、苦しむ仲間寄り添うこと、いじめを見かけたときに、ただ見過ごすのではなく「傍観者の勇気」をもって行動に移せるよう意識の高め、誰もが安心して過ごせる社会にしていきましょう。」と呼びかけました。

フィナーレでは実行委員とシンガーソングライターの mimika さんが、「心つないで 2022」を披露しました。コロナ禍で全員の合唱はできませんでしたが、さぬき提灯の灯火でいじめゼロに向けて強い決意が表現されました。

金子教育次長様からは、「サミットで灯した温かい灯火を各学校に持ち帰り、県内全てのなかまがいじめSTOPにむけて力強い一歩を踏み出してくれることを期待します。」と参加者に向けてメッセージが送られました。

みなさん、「いじめゼロ子どもサミット2025」で会いましょう！

